

兄弟姉妹の皆様

私たちのローマのパパ様・フランシスコ教皇様は今回のシノドスにおいて、「第2バチカン公会議を見直し、立ち戻り、生かしてほしい」とメッセージをくださいました。

2022年待降節から、ミサの式次第が新しくなりました。これも、その新しい流れの一つです。

今回はサンパウロ発行「第2バチカン公会議 公文書全集 南山大学監修「第1章 典礼の刷新と促進のための一般原則」の「Ⅲ 聖なる典礼の刷新」の続きを解説します。

私たちも、ミサや祈りに主体的に関われるように、一緒に学びましょう。

尚、わかりやすい表現を用いるため、多くの資料を参考にさせていただいておりますことをはじめにお伝えしておきます。

主任司祭 ペトルス・ウィリー・ソバ・ドイ O.C.D.

Ⅲ 聖なる典礼の刷新

典礼憲章 ⑩ ~第二バチカン公会議公文書より~

C 典礼の教育的、司牧的性格に基づく基準

【典礼】は主として「神の威光」にささげる礼拝ですが、私たち信徒の教育のためにも大きな価値を含んでいます。【典礼】において、神様は私たちに語り、イエス様は今も福音を告げてくださっています。そして、私たちは「歌」と「祈り」とをもって神様にこたえます。

イエス様に代わって集会を司る司祭が神様に捧げる祈りは、聖なる民全体と、私たち一同の名によって唱えられます。

神様、イエス様、聖霊といった「目に見えないもの」を示すために用いる「目に見えるしるし」である【典礼】はイエス様と教会によって選ばれたものです。従って「われわれの教訓のために書かれたこと」（ローマ 15・4）が朗読される時だけでなく、教会が祈り、歌い、行うときには、これに参加する私たちの信仰は養われ、心は神様にあげられます。こうして私たちは霊的な礼拝を神様に捧げ、神様からのいっそう豊かな恵みを受けるのです。

ローマ人への手紙 15章4節

「前に書かれたことはすべて、わたしたちの教訓として書かれたもので、聖書が与える忍耐と励ましによって、わたしたちが希望を持ち続けるためです。」

【典礼】の刷新にあたっての一般基準

- ・儀式の構造： 儀式は簡素な美を備え、簡単明瞭であり、不必要な重複を避け、信者の理解力に順応し、多くの説明を要さないものでなくてはなりません。

(つづく)